

# 「森の聞き書き甲子園」に取り組んで得たこと

木曽青峰高等学校 森林環境科 2年 ○ にしむら西村 たくま拓馬  
すぎもと梶本 きょうこ杏子

## 要旨

私たちは「森の聞き書き甲子園」に参加し、実際に森の名人に会って取材をし、取材した内容をまとめ、レポートを作成しました。この経験は、レポートをまとめる大変さや、直接名人の話や技を見せて頂くこと等とても充実したものでした。この「森の聞き書き甲子園」での経験を今後の学習などに生かしていけたらと思っています。

## はじめに

私達は木曽青峰高校森林環境科の2年生です。今回は昨年と今年に「森の聞き書き甲子園」に参加した2人の取材内容を報告します。

「森の聞き書き甲子園」とは、全国100人の高校生が「森の名手・名人」を訪ね、知恵や技術、人生そのものを「聞き書き」し、記録する活動です。この活動に参加した理由は、先生にこの「森の聞き書き甲子園」を勧められたのがきっかけでした。私たちも、全国の高校生と交流できて、森の名手・名人に直接話しを聞きに行けるということに興味を持ちこの活動に参加することにしました。



## 1 経過

### (1) 東京での講義

聞き書きをするに当たって、必要なことを勉強するため、夏休みに東京で研修会が行われました。研修会では、実際に取材を行い、テープで録音したものを聞き起こして、パソコンでまとめる作業をしました。思っていた以上に、文をまとめるのが難しく大変でした。

研修会が終わり、今度は自分達で実際に取材をして、レポートにしていきます。取材をするに向けて、どんな名人のところへ行って取材をするのか、聞き書きを上手にできるのか、レポートをちゃんと仕上げるができるのか、など不安ばかりでした。



### (2) 2007年度の「聞き書き」

昨年は、梶本杏子がこの森の聞き書き甲子園に参加しました。

私は、木曽福島町新開にお住まいの巾崎理一さんのところへ取材に行きました。巾崎さんは、年齢が80歳を越える今でも山へ行き、作業をされています。また、学校や森林管理署などいろいろなところから声がかかり、積極的に講演会を開かれています。はじめは緊張しましたが、巾崎さんはとてもいい方で気安く取材できました。



巾崎さんの山を見せていただくと、その山はとてもきれいに整備されていて、光が差し込んでいました。私は強く感動しました。植えてある木はほとんどがヒノキで、少しサワラやスギ、カラマツがあるそうです。巾崎さんはしいたけの原木も作っていらっしや、山から自分で伐り出してきた木もご自分で乾燥されるそうです。

私にも実際に枝打ちの体験をさせて下さいましたが、このときうまく枝を切ることができず、誤って自分の指を切ってしまいました。そんな私とは正反対に、巾崎さんは梯子を使ってなれたように数mをあつという間に上ってしまい、さっさと作業をされました。その動作はとてもスムーズで「さすが名人。」と驚きを隠せませんでした。

山での体験の後、巾崎さんが自分で植えたヒノキで造ったヒノキ御殿へ入れていただきました。中はヒノキのきれいな木目が通っていて、まさに御殿でした。このヒノキ御殿で用意していた質問を聞き、取材を終えました。



## (2) 2007年度の「聞き書き」

今年、西村がこの森の聞き書き甲子園に参加しました。

西田源一さんは、木曽郡大桑村にお住まいの、年齢が80歳になった今でも木を割り続けて野根板を作っている元気な方です。初めての取材のときに、緊張で頭がいっぱいでしたが、西田さんはとてもやさしくして下さい、いい方でした。一回目の取材の時には、お昼ご飯までごちそうになってしまいました。

野根板とは、木を薄く割ったものです。その薄く割った木を網代にして編んでいき、茶室の一部にします。野根板の材料は、ネズコ、サワラ、杉を使います。右の写真が、完成した網代になります。

作業の工程を説明しますと、銚（せん）を使って木を削ります。銚を使い木を割ります。へぎ包丁を使い木に割れ目を入れます。両手で割っていきます。勝ち負けしないように割ります。勝ち負けとは、片方にだけ木が、集中しないことをさします。割れていく瞬間は気持ちの良いものです。

私も野根板を実際に割りましたが、うまく、両方に裂け切れることが出来なくて残念でした。長年の経験とコツを知っている名人だから出来るのだらうと思いました。



#### 4 成果

今回の取材を通じて、名人はとにかく凄いと思いました。伝統や技術を大切に受け継いでおり、続けることの大切さを実感しました。私達もさらに専門性を深めて勉強していきたいと思いました。

特に、巾崎さんのすばらしい山を見て、「自分もこんな山を造れるようになりたい」と思い、林業に向けての興味が高まりましたし、西田さんの木を手で割るという技術についてはその技の奥深さに感動しました。

報告書作りは苦勞しました。テープで聞き起こしするのに時間がかかりました。名人の言葉を正確に書き残しながら、まとめるのが難しかったです



#### まとめ

「森の聞き書き甲子園」に参加して全体を省みると、事前研修会の講義は、とても分かりやすく参考になりました。レポートをまとめるのは大変でしたが、終わったとき、やってよかったと思うことができよい経験になりました。取材をしてみて、自分の取材でうまく名人の言葉を引き出せなかったことや、テープの書き起こしに時間がかかってしまったと反省しています。しかし貴重な名人のお話は、私たちにとって大変参考になりました。また、研修中に全国各地の人と親睦が深められて良かったです。

今回このように貴重な勉強や体験の機会を与えていただき、「森の聞き書き甲子園」に、参加出来たことを感謝しています。「森の聞き書き甲子園」で習ったことを、今後は是非専門科目の授業に生かして、進路につなげていきたいと思います。

末筆になりましたが、お世話になりました名人、林野庁、中部森林管理局、木曽地方事務所林務科、学校の先生方など多くの皆様に深く感謝申し上げます。

